

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100790		
法人名	社会福祉法人 徳栄会		
事業所名	グループホーム 共生		
所在地	宮崎県宮崎市清武町加納甲1317番地		
自己評価作成日	平成27年7月15日	評価結果市町村受理日	平成27年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様と「共に生きる」を基調に、安心と希望のある豊かな福祉文化の創造推進を理念に掲げ、地域に密着した施設造りを目指しています。  
入居者様一人ひとりの尊厳を大事にし、その方らしい生活を送って頂けるように最大限努力するよう努めます。  
古民家風の温もりの感じられるバリアフリーな建物、家庭的な雰囲気の中で、お一人おひとりのペースで生活を送って頂いています。  
食事は、毎食職員が手作りをし、ご入居者様と共に準備や片付けを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に全職員が「利用者がいつまでもその人らしく生活するための支援」を意識して実践に取り組んでいる。身体拘束のないケアや虐待防止の研修、勉強会を行い、言葉遣いや声かけ、声のトーンなど、利用者に対し細やかな気配りがなされている。運営推進会議を契機に、地域のお祭りに参加し、地域住民への介護教室を開催している。重度化、終末期の対応指針があり、利用開始時に説明し、同意書を得ている。その後状況に応じ、関係者全員で話し合いを繰り返し、また、日々の生活の中で他の利用者の理解を深め、本人の望む看取ができるよう体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の皆様と「共に生きる」を基調に、安心と希望のある豊かな福祉文化の推進』という理念の下、日々の業務に携わっています。職員間では会議の場や業務において理念の共有が図れるように取り組んでいます。	法人が掲げる理念を、職員会議等の折りに話し合い、全職員で共有し、実践につなげるよう取り組んでいるが、ホーム独自の理念は作られていない。	地域密着型サービスとして大切なことを全職員で話し合い、共通した思いをホーム独自の理念として作り上げる取組を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩を行う時には挨拶や会話を交わす馴染みの方も増えてきました。去年は地域の公民館で行われたお祭りにも声をかけて頂き、参加させて頂きました。	散歩の折に近隣の人と挨拶を交わし、ホームの前の道路を行き交う人と会話をするなど、地域とのつながりを構築するよう努めている。また、地域の祭りに参加し、積極的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で民生委員や区長等に地域における認知症についての相談窓口、連携機関となれるように働きかけを行っています。また、今年には地域住民への介護教室にて認知症についての勉強会を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時には、入居者様の状況、施設の現状報告等を行っています。意見を頂きながら、より良い施設運営に活かせるように努めています。	参加メンバーから、地域の行事等への参加依頼やホームの取組への意見や助言が出されている。ホームは出された意見等にすぐに対応し、積極的に改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催時や地域包括支援センター主催の勉強会に参加する事で、関係構築を図っています。また、地域包括ケアシステムの働きを担えるように働きかけを行っています。	市の窓口に、事故報告書等の文書を届ける程度の関係にとどまっており、ホームから積極的に連携を図ることは少ない。	ホームの実情や問題点など、現場の状況を市の担当者に知ってもらうよう積極的に市に出向き、また、メール等で助言や指導を得るなど、協力関係を築く取組を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や職員会議の席、また、業務においても身体拘束に関して話し合いを行っています。	ホーム内で勉強会を開催し、身体拘束のないケアの大切さについて話し合っている。管理者は特に言葉遣い、声のトーンについて、業務の中でも日々指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、根拠法や虐待についての事例等を踏まえ、職員に周知しています。また、業務においても職員にその都度説明を行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加した内容を職員会議や勉強会を通し説明し、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前には施設見学にお越し頂き、ご家族様の不安や疑問に思う点をお聞きし、説明するように努めています。また、ご入居時に重要事項等の説明を行う際も施設の現状を踏まえ説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様にも参加して頂き、意見、要望を出して頂き、運営に活かせるように努めています。なお、玄関に第三者委員の連絡先を掲示し、言いにくい事も相談できるようにしています。	運営推進会議への参加を全家族に声かけし、依頼している。来訪時には話しかけ、何でも言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。出された意見や苦情には早急に対応し、随時、経過や結果を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会の席には必ず、管理者が参加し、その際に意見を出してもらい、運営に反映させるように努めています。	管理者は、職員会議時に職員が意見を表出するよう声かけをしている。法人全体の懇親会を年数回開催し、運営者との交流の場となっている。管理者が職員の意見等を聞き、それを法人本部へ伝える体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内の職員の状況は管理者を通して把握するように努めています。改善点等より良い労働環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月開催し、外部研修にも参加できるように努めています。また、資格取得等、積極的に資質向上に繋がるよう支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通して、外部の繋がりを持つと同時に、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来て頂き、ご本人、ご家族様に施設の雰囲気を感じて頂き、生活する上で不安な点や希望する事を伺っています。入居後もご本人様が安心して生活を送れるように留意しながら支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面談を行い、不安な事や生活に対するご希望を可能な限り聞き取るように心がけています。入居後も、必要に応じてご本人様の様子を報告させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、お話を伺う中で、他の事業所、施設等のサービスについて説明し、助言を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活や活動を通して、職員が分からない事を教えて頂く等、ご入居者様と職員の信頼関係は築けていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話にてご本人様の様子を報告し、ご本人、ご家族様の関係構築ができるように心がけています。また、外出や外泊がしやすいように柔軟に対応を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設主体では実施出来ていませんが、ご家族様の協力のもと、ご自宅に帰られたり、お墓参り、友人との交流等が来ています。施設での面会支援も行っています。	知人の来訪時にはお茶を出し、声かけをして、また、隣接する施設に親族を訪問する利用者に付き添い、関係が継続できるよう支援している。墓参りなど、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や活動、静養時等全てにおいて、ご入居者様の関係性に留意し、職員の関わりや環境設定により、円滑な関係構築ができるように支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至るまで、関係先への情報提供、ご本人、ご家族様の希望にそった支援を行うように心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族様を通して、生活史の聞き取りや希望、意向を伺い、できるだけご本人様の希望に沿った生活を送って頂けるように取り組んでいます。	本人や家族から生活歴を聞き取り、全職員で共有し、本人の希望に沿った生活ができるよう取り組んでいるが、日々の記録等に、支援の中での気づきが活かされていない。	思いや意向を把握し、寄り添うケアの中での気づきを職員が共有できるよう、記録の工夫やセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用する取組を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまで送ってこられた生活歴を聞き取り、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の記録から、ご入居者様の心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様の担当職員を決め、毎月の評価を行っています。また、職員会議の席や日々の業務において情報共有を図っています。ご本人やご家族様にも面会時等に意見や希望をお聞きするようにしています。	毎月担当職員がモニタリングを行い、3か月ごとに計画作成責任者がモニタリングと計画の見直しを行っている。担当者会議で本人や家族の意向を確認し、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り時での情報共有や支援経過記録にケアプランの目標に沿った記録を記載するように努め、月1回の評価時を行う事で介護計画の見直しに活かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や状態の変化により新たなニーズが発生した際は、ご本人、ご家族様の意向を確認し、柔軟な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の施設と合同ではありますが、地域ボランティア、移動図書館等を受け入れています。また、地域のお祭りにも参加させてもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様には、入居時に医療に関する希望をお聴きし、要望に沿って対応しています。受診への付き添いや月2回の訪問診療、往診の手配等、ご本人様、ご家族様と相談、意向をお聞きしながら、かかりつけ医との連携を図り、支援を行っています。	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。協力医の定期的及び随時の往診があり、適切な医療を受ける体制を整えている。家族が通院に付き添う際は、ホームでの状況を口答で伝え、結果を聞いている。また、必要に応じて同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が配置されており、入居者様に関する情報を共有しています。また、介護職員に対して必要時医療面の指導を行う事で、入居者様の健康管理ができるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には管理者及び常勤看護師が病院関係者、ご家族様等との連絡を取り合い、状態把握に努めています。また、スムーズな退院に繋がれるように、退院時にはカンファレンスに参加しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に関しての基本的な指針をご説明し、意思確認を行っております。また、看取りの段階に至った際は、主治医を含め、ご家族様との話し合いを行っています。	利用開始時に指針を示し、同意書を得ている。状況に応じて、随時担当医師、家族、職員で話し合いを行い、その時々の方針を確認して体制を整え、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、定期的に普通救命救急講習を受けています。救急者搬送マニュアルを作成し、迅速な対応ができるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を設置し、火災を想定した避難訓練や消火訓練を行っています。	年2回の避難訓練を実施している。隣接する同法人施設との連携はできているが、夜間を想定した訓練がなく、地域の協力関係を得るまでには至っていない。	地域との協力関係を築くため、訓練への参加を依頼するなど、積極的に取り組み、また、種々の災害を想定した実際的な訓練を実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の一つに「尊厳への配慮」を掲げ、日々意識の向上に努めています。その方一人ひとりの人格を尊重することを心がけ、声かけやコミュニケーションにも配慮し、気持ちを損ねる事のないようにしています。	利用者の人格を尊重した自己決定しやすい言葉かけや対応を実践している。居室への入室時も小さな音でノックし、ゆっくり落ち着いた声かけをしている。排せつ等の誘導もさり気なく目立たない支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、自己決定ができるように心がけています。活動時も強制する事はなく、無理のない範囲でご自分に合ったものを選んでもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しないよう留意しながら、入居者様一人ひとりのペースで過ごして頂けるように職員は心がけています。レク活動や運動等に関しても選択して頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がご入居者様の容姿に感心を持ち、その方に応じた服装で過ごして頂けるように留意しています。また、ご本人様が希望する場合は隣接する施設での美容室での対応を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食材を使用し、毎食、職員が手作りにて食事を提供しています。できる方には注ぎ分けや配膳等を手伝って頂いています。	職員は、利用者と一緒に食卓を囲み、季節感ある手作りの食事を提供している。配膳や注ぎ分け、食器洗いなど、能力や興味に応じて、利用者到手伝ってもらっている。時には、たこ焼きやクレープなどのおやつ作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、ご入居者様ごとに食事量や水分量について考慮し、対応させて頂いています。食事量のチェック、体重測定を行い、状態把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に口腔体操を実施し、毎食後に口腔ケアの声かけを行い、不十分な箇所や出来ない所は介助にて行い、磨き残しがないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に個人の排泄状況を記載し、職員全員が把握できるようにしています。トイレ誘導や排泄介助を行い、入居者様の状態に応じた支援を行っています。	骨折している利用者等を除いて、自立している。自立した排泄つが継続できるよう、トイレへの誘導、希望によりポータブルトイレを利用するなど、一人ひとりの希望や状況に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、食物繊維を取り入れた食事を提供、また、適度な運動を行い、便秘予防に努めています。医師、看護師に相談の下、必要に応じて緩下剤の服用等の支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、基本的な入浴日は決めさせて頂いておりますが、ご本人の体調面を考慮し、また、可能な限りご希望に添えるように支援を行っています。	週3回入浴を基本にしているが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。利用者が職員と1対1で会話を楽しみながら、ゆっくりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が観察し、入居者様の体調や生活習慣に応じて、居室にて休んで頂けるように支援を行っています。居室掃除の際ベッドメイキングを行い、安眠して頂けるよう環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに添付し、全職員が見ることができるようにしています。2名の職員が必ず、日付、名前を確認、与薬しています。看護師、介護職員が連携を図り、情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの生活歴を把握する事に努め、生活の中で役割を持って頂けるように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時はご希望に応じて近所への散歩に出掛けています。季節に応じて屋外ドライブにも出掛けています。また、ご家族様に協力して頂き、外出、外泊ができるように支援させて頂いております。	気候の良い日は、近所を散歩している。また、家族の協力を得て、自宅へ帰ったり、墓参りを行っている。利用者からの外出の希望が多く、年間計画を作っているが、気候等を理由に数回しか実施していない。	その人らしく暮らし続けるため、また、ストレス解消のために、短時間でも、近隣でも、工夫して出掛ける機会を作ったり、また、個別の外出支援に取り組むことを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が希望される場合は、ご家族様と相談し、お金をお預かりして外出時等に使って頂けるように、金銭管理の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、ご家族や知人との電話連絡等の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井が高く、梁を使用したためくもりを感じられる作りとなっており、照明もLEDを使用する事で目に優しい工夫を行っています。また、音などの刺激を防止する等、必要に応じて随時工夫を凝らしています。	利用者がくつろいで過ごせるよう、音響や職員の声、職員の動き等に気を配っている。食卓スペースの横に広々とした空間があり、利用者がそれぞれお気に入りのソファでテレビを観たり、うたた寝をしたりして、ゆったり過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを設置し、入居者様の関係性を考慮し、過ごして頂く場所や席への配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時には馴染みのものを持って来て頂けるように説明を行っています。居室にはご入居者様の使い慣れた物を使用できるように支援しています。	利用開始時に、使い慣れた物、なじみの物を持ち込んでもらうよう依頼している。掲示スペース確保のため、ボードを取り付ける計画もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアリーとなっており、安心、安全に過ごして頂くため、トイレやお風呂の表示や照明なども、分かりやすく工夫しています。		